



南の躍動

第 2 号



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和4年9月12日

「0～18歳の学びの連続性に配慮した教育活動」

指導課長 宮里 英樹

今年の夏、令和4年度鹿児島県幼稚園教育課程研究協議会、令和5年度公立高等学校生徒募集定員策定等に係る地区説明会に参加しました。

参加した先生方の話を聞く中で、該当する段階だけではなく、0～18歳までの学びの連続性を意識して課題を捉えることが必要だと改めて感じました。

学校段階等間の接続について、小学校の学習指導要領には、

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。
- 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

と記載されています。

また、中央教育審議会の審議経過報告の中では、

- 0～18歳まで見通した学びの連続性に配慮しつつ、幼保小の接続期の教育の質を確保するための手立ての不足が課題の一つである。

と挙げられています。

さらに、特別支援教育を推進する中でも、「切れ目のない支援を実現すること」が重視されており、このことから、「学びの連続性に配慮した教育活動」は、一つの大切な考えであると言えます。

目の前の子供たちは、0歳であっても、6歳であっても、12歳、15歳、18歳であっても、それぞれの段階で身に付けるべき資質・能力があり、学びの連続性を意識して指導に当たることは、子供たちが将来社会の形成者となるために大切なことです。このことは、教育基本法第一条に教育の目的として、

- 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

と記されていることから明らかです。

先生方におかれましては、ぜひ、「0～18歳の学びの連続性に配慮した教育活動」を意識していただき、校長先生のリーダーシップの下、将来社会の形成者として必要な心身ともに健康な子供たちの育成に全校体制で取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



令和4年度大島地区コアティーチャーネットワークプロジェクトにて作成された「学力定着のためのリーフレット（授業モデル）」が、大島教育事務所のホームページに掲載されています。御活用ください。



大島教育事務所ホームページ

大島教育事務所

検索

地区道徳教育研修会(知名町立田皆小学校, 龍郷町立赤徳中学校)

今年度は、地区道徳教育研修会を2校で実施しました。

小学校部会では、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、対面とリモートどちらかの参加方法を選択して参加する形での実施となりました。田皆小学校、赤徳中学校両校において、先生方全員で道徳科の授業に関わるための体制づくりを構築し、「考え、議論する道徳」を目指す授業改善に取り組みました。両校の取組を参考に、今後も各学校で「考え、議論する道徳」の授業づくりの充実をお願いします。

【知名町立田皆小学校の取組】令和4年6月8日(水)

- 1 研究主題
主體的に判断し、表現できる子供の育成
～伝え合い、考えを深める「特別の教科 道徳」の工夫を通して～
- 2 研究内容
【視点1】教師が明確な意図をもった授業の展開の工夫
【視点2】児童が多面的・多角的に考えを深めるための工夫
【視点3】自己の生き方について考えを深めるための工夫
- 3 研修会の様子から
 - (1) 研修主題を基に職員一丸となり、組織的な取組がなされていた。
 - (2) 教師と児童の信頼関係がよくできている。児童同士が互いに認め合い、学級内に意見を言い合える雰囲気があった。児童の発言から、児童の内面的な成長に気付き、喜び、価値付けをする担任の姿が見られた。
 - (3) 山場の工夫では、ロイロノートを活用したり、座席を工夫したりすることで、多面的・多角的に考える授業が展開されていた。



【龍郷町立赤徳中学校の取組】令和4年6月23日(木)

- 1 研究主題
「考え議論する道徳科授業を通して、自己を深く見つめることのできる生徒を育成する指導はどうあればよいか」
- 2 研究内容
【視点1】 考え議論する道徳授業をするための多様な指導方法の工夫から、生徒の学ぶ姿はどのように変化するのか。
【視点2】 自己を深く見つめる道徳授業を通して、人間としての生き方についての考えをどのように深めているか。
- 3 研修会の様子から
 - (1) 管理職のリーダーシップの下、学校全体として道徳教育の充実を目指した校内研修体制が確立されていた。
 - (2) 日々の学級経営が充実しており、生徒同士及び担任と生徒のよりよい関係性が構築されている。そのため、自分の考えを発言しやすい雰囲気ができていた。



奄美の文化財等 ～伯国(ブラジル)橋～

宇検村は、古くからブラジルとの交流があります。平成30年には、ブラジルへの移民百周年を迎えました。

昭和28年12月25日には、奄美群島の日本復帰を記念し、ブラジル在住湯湾出身者総勢59名から宇検村へ義援金が贈られました。この義援金は、戦争中の空襲により破壊され、再建がままならなかった湯湾川に架ける橋の建設費用とされました。昭和31年に完成した橋は、宇検村民からブラジルにいる同胞へ感謝の気持ちを込め、「伯国(ブラジル)橋」と名付けられました。



完成から66年経過した現在も、街歩きのルートとして活用されるなど、大切に受け継がれています。

【宇検村教育委員会社会教育課提供資料】

